

豊富な経験と最新技術でアフターケア Doctor's Eye



岐阜支店
大垣営業所

高圧負荷開閉器の絶縁樹脂劣化で あわや停電!?

12月の冷たい雨の降る日、年に1度行う、電気設備の停電点検(年次点検)を6名で実施していました。これは、お客さまの電気設備をすべて停電させる点検です。停電後、いつものように保護継電器試験、外観点検、絶縁抵抗測定を行っていました。

点 検も中盤に差し掛かったころ、絶縁抵抗測定を行っていた保安担当者が高圧機器の絶縁抵抗値を測定し、とても低い値であることを発見しました。測定した場所を確認し、その周りを注意深く点検していると、高圧負荷開閉器(LBS)の絶縁樹脂部分が劣化し、ひび割れている箇所を発見しました。当日の天候は雨。この機器は25年以上使用され、協会からも取替えのお願いをしていたこともあり、雨水の浸入などにより、送電後に突然停電することも予想されました。そのため、「すぐに取り替えを行わないと突然停電する恐れもある」とお客さまに取り替えを依頼しました。当日は休日のため、機器の手配も難しいことから、やむなく後日、取替工事をしていただくこととなりました。

お 客さまは多くの人々が行き交う公共施設ということもあり、停電となれば大きな混乱を招くことは容易に想像できました。取替工事が完了するまでは、「停電が起こるのではないか?」とヒヤヒヤしていましたが、お客さまから「無事に取替工事が終わった」と連絡を受けた時は、ホッと胸を撫で下ろしました。

今 回発見した劣化箇所は、月に1度の月次点検では困難な点検箇所であり、年に1度の停電点検で行う絶縁抵抗測定によって、ようやく発見することが

できました。これにより、改めて停電点検の重要性を再確認するとともに、経年劣化による設備機器の更新(取替)計画をご提案することが、お客さまに「安全・安心」をお届けすることに繋がるのだと実感しました。

これからもお客さまに電気設備を安心してご利用いただくための、心のこもったサービスをご提供していきたいと思っております。



劣化箇所

